

肉豚の出荷適期に関する試験

田代 恵 広

(福島県畜試)

1. ま え が き

ランドレース種およびその交配種はヨークシャー種と比較して発育が早く、80～90kg程度の仕上げでは、肉の熟度が不足するので出荷適期について肉質と飼養経済との関係について試験した。

2. 試 験 方 法

1. 試験期間：昭和41年10月～42年3月

2. 試験期の区分：予備期、各区の生後日令75日（平均体重約17.0kg）までとし、この間、駆虫、豚コレラ予防注射をし、供試飼料に馴らした。

試験期

90kg区、生後75日令～区の平均体重90kgまで

100kg区、生後75日令～区の平均体重100kgまで

110kg区、生後75日令～区の平均体重110kgまで

3. 供試豚：1腹より6頭（雌3，去勢3）をとり、2腹分を組合せ、1区4頭（雌2，去勢2）とし、生年月日は同一（41. 8. 12生）のものでランドレース種を用いた。

4. 飼料の配合割合：豚産肉能力検定飼料を用いた。

5. 給与量（第1表）

6. 給与方法：給与方法は、生後日令を基準とし、同一日令で仕上げるように第1表により、90、100kg区については1日1頭当りの給与量を4倍、1日当りの給与量として10日間同一量を、110kg区は不断給飼とし、各区の平均体重50kgまでを前期飼料、50kg以上は後期飼料を

第1表 給 与 量

生後日令	給 与 量		生後日令	給 与 量	
	90kg区	100kg区		90kg区	100kg区
日	kg	kg	日	kg	kg
61～70	0.7	0.8	141～150	2.0	2.4
71～80	0.8	0.9	151～160	2.3	2.7
81～90	0.9	1.0	161～170	2.6	3.0
91～100	1.0	1.2	171～180	2.8	3.2
101～110	1.2	1.4	181～190	2.9	3.4
111～120	1.4	1.6	191～200	3.0	3.5
121～130	1.6	1.8	201～210	3.1	3.6
131～140	1.8	2.1	—	—	—

注. 110kg区は不断給飼とする。

用いた。

また90kg区、100kg区は飼料を1日3回に分け、散逸しない程度に打水して、水は別に各区ともウォーターカップにて自由飲水とした。

7. 管理の概要：豚房の広さは231×264cmで1豚房に4頭を群飼いとして収容し豚房は朝夕2回清掃し、豚体の手入は特に行なわなかった。

体重測定は10日間隔に午前10時の食間に秤量し、駆虫は必要に応じて随時実施した。

8. と体の処理方法：各区とも所定の体重（平均体重）に達したとき、1週間以内に24時間絶食し、当該施設の畜場で電殺皮はぎ法によりと殺解体し、所定の調査を実施した。

9. 試験期間中の調査および測定事項

- (1) 飼料消費量
- (2) 発育増体
- (3) 飼料要求率
- (4) と体肉質

A. と肉歩留、B. ロース長、C. ロースの面積、D.

皮下脂肪の厚さ、E. 背腰長Ⅱ、F. と体巾、G. 椎骨数

- (5) 枝肉中の赤肉・脂肪・骨の割合（簡易法）により各区2頭を分離した。

3. 試 験 結 果

試験終了時日令は90kg区222日、100kg区211日、110kg区223日で、100kg区が最も早く、次いで90kg区、110kg区の順であった。

また、試験所要日数も100kg区が136日令で最も早く、次いで90kg区147日、110kg区148日であった。これは100kg区において各個体の体重が他区よりもバラツキが少ないことを示している。

1日平均増体重は、90kg区の498gが最も低く、100kg区630g、110kg区634gとあまり大差はなかった。

飼料消費量は、110kg区が最も多く、次いで100kg、90kg区の順であった。

飼料要求率、不断給飼を実施した110kg区が3.98で最もよく、次いで90kg区の4.11、100kg区4.31であり試験

第2表 試験成績 (区の平均値)

調査項目	90kg区	100kg区	110kg区
試験開始時日令	75日	75	75
試験終了時日令	222日	211	223
試験所要日数	147日	136	148
1日平均増体重	498g	630	634
飼料消費量	300.9kg	355.6	373.2
飼料要求率	4.11	4.31	3.98
試験終了時体重	90.2kg	100.1	110.9
と体重 { 温と体	63.1kg	70.1	77.1
と体重 { 冷と体	61.9kg	69.0	76.0
と肉歩留(冷と体)	70.5%	72.0	71.9
と体 { 長	94.3cm	97.2	99.3
と体 { 巾	33.0cm	34.0	34.6
ロース { 長	52.8cm	53.9	54.1
ロース { 面積	19.9cm ²	19.4	21.3
背 腰 長 II	69.3cm	71.4	72.3
皮下 { 肩	3.4cm	3.9	4.6
皮下 { 背	2.1cm	2.4	2.4
皮下 { 腰	3.2cm	3.4	3.4
皮下 { 平均	2.9cm	3.2	3.5
大割肉片の割合 { カタ	32.8%	31.5	31.6
大割肉片の割合 { ロース	35.4%	37.6	37.3
大割肉片の割合 { ハム	31.9%	31.2	31.1
胸 腰 椎 数	16:6-3	15:6-1	15:6-1
	17:6-1	16:6-2	16:6-1
		17:6-1	16:6-1

区間には有意差は認められなかった。と肉歩留は体重の増加とともに多くなっているが試験区間には有意差は認められなかった。

と体長、背腰長Ⅱ、Ⅲ(ロース長)、と体巾は体重の増加とともに長く広がっているが、これら試験区間には有意差は認められなかった。ロースの面積も体重の増加とともに大きく各区、個体にバラツキがあり、背脂肪の厚さも体重が少ないほど薄い傾向にあり試験区間には有意差は認められなかった。

カタとハムを比較するとカタがやや重い傾向にあるが、ランドレースの特徴である中軀に伸びがある点では各区とも体重増加とともによくなる傾向にあるが、ロース・バラの割合では、100kg区が37.4%で最もよいが、これら試験区間には有意差は認められなかった。

簡易法により各区2頭、計6頭を分離した数値で赤肉の割合は90kg区が最も多く、次いで110kg区、100kg区の順であり、脂肪では100kg区が多く、90kg区が少なかった。

4. 考 察

1. 飼料要求率は110kg区3.98で最も低く、90kg区4.11、100kg区4.31で各区における1頭平均飼料消費量は110kg区373.2kg、100kg区355.6kg、90kg区300.9kgで110kg区が最も多く消費した。

2. と体成績中と肉歩留については、100kg区73.2%で最もよく、110kg区73.0%、90kg区72.0%の順であっ

第3表 赤肉・脂肪および骨の割合

区	名号	性別	左半丸 重量	重 量 (kg)				割 合 (%)			
				赤 肉	脂 肪	骨	その他	赤 肉	脂 肪	骨	その他
90 kg	4 50	♂	34.47 ^{kg}	22.15	7.85	3.21	1.26	64.3	22.8	9.3	3.7
		♂	40.72	22.42	13.51	3.33	1.46	55.1	33.2	8.2	3.6
100 kg	49 55	♂	34.28	17.99	11.15	3.23	1.91	52.5	32.5	9.4	5.6
		♀	35.46	19.92	10.80	3.36	1.38	56.2	30.5	9.5	3.9
110 kg	3 32	♀	42.67	25.41	12.25	3.38	1.63	59.6	28.7	7.9	3.9
		♂	39.79	22.91	11.85	3.18	1.85	57.6	29.8	8.0	4.7

注. その他、腎脂、腎臓、クズ肉を含む。

た。

脂肪については90kg区は脂肪は薄い肉の締りに欠け、また肉色も淡く100kg、110kgと大型になるにしたがい脂肪が厚くなるが、肉締りがよくなり、かつ肉色も増し、赤肉と脂肪の割合は体重の増加とともに赤肉の割合が増加する傾向があった。

3. 枝肉取引規格の枝肉重量と背脂肪の厚さについて合せてみると各区とも上クラスに入るが、肉質と脂肪の点からみて、枝肉は110kg区が最も良好であった。

5. む す び

以上の成績から飼養経済性について飼料費だけについ

てみると（飼料単価1kg, 前期用34.5円, 後期用33円）
90kg区10,097円, 100kg区11,914円, 110kg区12,468円
であり, 今かりに枝肉kg当り単価 320円とみれば90kg区
19,808円, 100kg区22,080円, 110kg区24,032円となり
これを差引試算すれば90kg区 9,711円, 100kg区10,166
円, 110kg区11,564円で90kg区より 100kg区 455円,

110kg区 1,853円多く, したがってこのことだけについ
てみるならば大型種のランドレースの出荷の場合100kg,
110kgの出荷が有利と思われるが, 脂肪厚の点や大型枝
肉の点で 110kg区は, 実際の取引きされる傾向がある。

なお, 正確を期するため42年度においても追試を行な
う予定である。

寒冷期における豚舎様式と豚の発育に関する実態調査

伊 藤 菁・村 田 亀 松

（岩手県畜試）

1. ま え が き

寒冷積雪地帯における施設費の節減を目的とした農家
向け簡易豚舎の様式を, 実験的に検討を加える資料を得
るため, 岩手県内農家の既設豚舎の様式と気温, 豚の発
育について調査した。なお調査に御協力を頂いた千厩,
一戸農業改良普及所および本宮農協に対し深甚の謝意を
表す。

2. 調 査 方 法

1. 調査地と調査期間

第1表のとおり, 県内3カ所, 各3戸の農家で実施し
た。

2. 調査の条件と調査項目

調査豚は全戸YLで, その飼養管理は各農家の慣行に
したがった。気温は最高・最低寒暖計を各豚舎内の高さ
1.2mに設け, 午前9時測定とし, 外気温は, 各地気象
測候所の観測値を用いた。発育と増体量は, 調査開始時

体重と終了時体重は実測し, 15~20日間隔に豚体重推定
尺を用いた。

3. 調 査 結 果

1. 豚 舎

調査時豚舎の概況は第2表のとおり千厩ではデンマー
ク式豚舎で, 農家養豚の規模であり, 外周は殆んどビニ
ール張りであったが, K. I 豚舎では北面をかやで覆
い, S. I 舎は時にストーブで暖めていた。盛岡では改
造豚舎であり, 豚舎面積=豚房面積という様式を示し,
F 舎の防寒設備のない豚舎と醗酵熱を利用したT舎が対
照的であった。一戸町Y豚舎は比較的規模の大きいデン
マーク式木造であり, O 舎は古い残飯養豚の型で形式的
に入口だけむしろ張りとした小屋であった。T. T 豚舎
は飼料用紙袋で外周を覆った様式で, 各地とも, 簡易な
構造と様式を示した豚舎であった。

2. 気 温

第1表 調査地と調査期間

地 帯 別	調 査 地	調査豚舎	調査頭数	調 査 豚 生 年 月 日	調 査 期 間
県 南	千 厩 町	S. I	9 頭	昭40. 10. 22	昭40. 12. 27~昭41. 3. 24 87日間
		K. I	7 〃	〃 10. 20	
		G. I	7 〃	〃 10. 5	
県 中	盛 岡 市	F	5 〃	〃 10. 21	昭41. 1. 11~昭41. 3. 24 76日間
		K	5 〃	〃 9. 16	
		T	6 〃	〃 10. 18	
県 北	一 戸 町	Y	5 頭 4 頭	〃 10. 20, 9. 6	昭40. 12. 27~昭41. 3. 28 91日間
		O	4 〃	〃 9. 20	
		T. T	〃	〃 10. 11	

注. 一戸町Y豚舎では2豚房の豚について調査した。